

# 教育委員会だより

## 学校教育推進の重点(学校別紹介)

### 第5回「宿南小学校」

#### 「池田草庵先生の教えに学ぶ教育」

「学は自得せんことを要する・学ぶ者は、事を厭い勞を辞すべからず」

これは池田草庵先生の教えです。草庵先生の生誕地にある本校は、教育方針の一つに「草庵先生の教えに学ぶ教育」をあげています。

勉強はすすんでするものとし、最後までやり抜く心、学習するにあたっての心構えや姿勢等を説く草庵先生の教えに学び、自らを律し、未来を見据える洞察力を養い、社会の変化に主体的に対応できる児童の育成をめざしています。草庵先生の教えは、人間教育の根幹に関わるものであり、行き先不透明な21世紀を生きる子ども達に不可欠な部分であると考えます。

学校・家庭・地域の3者が連携しながら取り組んでいる「あすこそへ運動」(あいさ

つ・スリッパ揃え・言葉づかい・掃除・返事)の基本は、生活の基礎・基本の重要性を説く草庵先生の教えです。

また、縦割り総合・福祉教育のねらいの中に「草庵先生に親しみを持ち、郷土を愛する心を育てる」、「青谿書院の清掃活動を通して、奉仕の精神を養う」をあげ、次のような取り組みを行っています。

#### ■静座・黙座

全校朝会は「草庵室」で正座をして行います。校長が、草庵先生の生き様や教えについて講話します。

#### ■書院清掃

兄弟学年で学期に2回行います。命日には全校生・全職員で清掃をさせていただきました。草庵先生に感謝しながら共に汗を流し、身も心も清められる気がする貴重な時間となっています。

#### ■地域の方の講話を聴く

草庵先生の命日に、ふだんは非公開の部屋を解放していただき、静座・黙座に取り組



み、草庵先生の教えについて学んでいます。

#### ■総合的な学習の時間の中で

テーマ「学ぼう探ろう宿南自慢」や「草庵先生の生き方を学ぼう」の中で、書物や文献を詳しく調べたり、地域の方々と話を聞き、草庵先生の教えや生き方をより深く追求し、まとめて発表しています。そして、学んだ事を日ごろの生活に生かしています。

社会の変化に主体的に対応して生きる力を培う基本が、また道徳的判断力を高め、的確な実践意欲の向上を図る基本が、草庵先生の生き方や教え・青谿書院にあると考えています。それを根底に据えた学校教育活動を展開し、学校教育目標の達成に向け、全教職員が一丸となって取り組んでいます。(学校長・藤本令子)

## まちの文化財 ②6

### 養蚕農家の調査

8月1日から5日まで養父市の全域を対象に、3階建て養蚕農家の現地調査を近畿大学建築学科の協力で実施しました。聞き取り調査では約500軒を訪問し、建築年代や大工さんの氏名などをお尋ねしました。

ご協力ありがとうございました。正面からみて1階、2階、3階という形で窓が連続する建物と3階建て養蚕農家と呼んでおり、養父市には約490棟ありました。この他にも、正面には3階の窓がなくても側面には大きな窓がある場合や、外観は3階建てでも内部は4層の住宅も拝見しました。

この調査で、3階建て養蚕農家の特徴が少しずつ分かってきました。第1は円山川流域には比較的少なく、高柳から上流の八鹿・関宮地域、そして浅野から上流の養父・大屋地域に集中していることです。

第2は、昭和初期から昭和30年代に新築された3階建て養蚕農家が多いことです。養父市の大工さんが完成させた建築様式だと分かりました。明治末期に

2階建て茅葺き住宅を、瓦葺き3階建て住宅に改修して始まったと言われたきましたが、当初から新築もあつた可能性も出てきました。

養蚕農家は、八鹿地域では高柳・八木・養父地域では畑・浅野・伊豆・内山、大屋地域では夏梅・大杉・蔵垣・筏・若杉・糸原・宮本・和田、関宮地域では三宅・大谷・中瀬・安井・外野・丹戸・別宮などで多く見られました。養父市は昭和40年代まで養蚕が盛んで、養蚕のために播磨から季節労働の応援を頼んでいた集落もありました。1軒で百貴目をこえる繭を出荷した家も拝見しました。

3階建て養蚕農家は、近代化遺産や産業遺産としても日本の建築史を代表する優れた住宅であり、養父市らしい農村景観を作っている素晴らしい財産です。(社会教育課)

